

図書館の職員さんに聞いてみよう!

本のはなし

話題の
新刊本!



老いの練習帳
著: 外山 滋比古
出版: 朝日新聞出版

老いるにもコツあり。平常心を失うことなく先を急ぐ、中庸の心持ちがいい。95歳の著者が、人との距離感から生きがいについてまで、変わりゆく世を淡々かつ快活に生きるための47の智慧をおしえる。
(中央図書館所蔵)



ねこなんていなきやよかった
作: 村上しいこ
絵: ささめや ゆき
出版: 童心社

じゃれたり、甘えたり、いたずらしたり。いつも隣にいてくれた、ねこのももちゃん。もう天国へ行っちゃったけれど、家族みんなの胸の中で、その姿は生き生きと輝いて…。いのちの愛おしさ、あたたかさが伝わってくる絵本。
(中央図書館所蔵)

図書館からの まめ知識 Vol.73

日差しの中に木々の芽吹きを感じる季節になりました。4月は、出会いと希望の季節です。本を読むことで、新しい体験ができたり、勇気や感動をもらえたり、たくさんの知識も得ることができます。だって、「本は心と頭の栄養」だから・・・図書館が豊かな学びの場として、心を耕す憩いの場となるよう努めます。皆さんのご利用をお待ちしています。

【いちからはじめる】
谷川 俊太郎 (一部抜粋)

いちねんせい いちは
いちばんの いち
いちから はじめて
どこまでも いける

おはなし会やその他のお知らせは P27

生活支援サポーター 委嘱式

2月14日

生活支援サポート事業とは、市社会福祉協議会が立ち上げた、日常の「困りごと」のお手伝いをする事業です。主なサービスとして、ゴミ出しや食事の後片付け、話し相手、住居の掃除など短時間で完了する仕事など生活支援をサポートします。現在は東榛原まち協の皆さんが活動されています。

今回、20人の方が生活支援サポーター講習を受講し、社会福祉協議会 喜多会長より、榛原地区まち協の皆さんに、委嘱状を手渡されました。



榛原地区まち協では、4月よりこの事業をスタートし、暮らしやすいまちづくりを目指しておられます。



▲委嘱式に参加された皆さん

室生三本松の昔話をモチーフにした創作ミュージカル「川を流れてきたお地蔵さん」

室生三本松中村の安産寺には小さなお堂があります。本尊は地蔵菩薩立像(重要文化財指定)で地域の人たちから子安地蔵として慕われ、時代を超えて大切に守られています。

2月23日、奈良市ならまちセンターで、この地蔵について地域に伝わる昔話をモチーフとして、命の大切さと地域の絆を学び語り伝える事を忘れないようにつくられた創作ミュージカル「川を流れてきたお地蔵さん」が上演されました。

今回、「NPO法人音楽の森」協賛でオーディションに合格した小学生から90歳代までの60人と地元の有志13人を含めた人たちが、昨年4月から練習を重ね出演しました。

当日は、まち協や自治会を通じ約60人が集まり、その他にも市内から多数の方が観劇しました。

上演後、観劇した人からは「地元の人も加わって演じられたのがよかった」「私たちの子安地蔵と心温まる物語が、心に残り感動しました」という声が聞けました。



都道府県対抗 全日本中学生ソフトテニス大会出場報告会

2月18日

「第31回都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会」の奈良県選抜チームのメンバーに選出された、榛原中学校 ソフトテニス部2年生の朝日大智さん、岩元望美さん、岩元愛美さんの3人が表敬訪問のため来庁されました。

高見市長、上田議長から激励の言葉を受けられ、3人は「個人戦、団体戦ともに優勝に向けてがんばります」と試合に向けての意気込みを伝えてくれました。

本来は3月26日から三重県伊勢市で開催予定でしたが、今回の新型コロナウイルスの感染予防要請を受け、残念ながら開催は中止されましたが、次の大会に向けて更にがんばってください。



▲前列左から、朝日大智さん、岩元愛美さん、岩元望美さん

「全国富士山の日」に大和富士登山大会を開催

2月23日

毎年恒例の登山大会。今年もちょうど2月23日の「全国富士山の日」に合わせて、榛原の額井岳(別名:大和富士)で、市観光協会主催、また地元額井自治会、東榛原まち協、十八神社の皆さんの協力により、開催しました。(13ページもご覧ください)



高齢者叙勲 おめでとうございます

瑞宝双光章
(郵政事業功労)

西岡さん(室生三本松)は、昭和25年から平成3年までの長きにわたり郵政業務に尽力されました。



西岡 魏さん
(元特定郵便局長)

三本松郵便局での勤務をはじめ、通信省から郵政省に変わるなか、地域の郵政業務の発展に貢献、染田郵便局長を最後に退職されました。また、退職後は地元自治会長や選挙管理委員会委員、奥山組合議員として長きにわたり地域発展に尽力されたことから、平成27年に宇陀市選奨を受けられました。

大和富士ホールを出発して、十八神社で登山者の安全祈願祭を行った後、山頂で昼食を食べ、山部赤人の墓を經由して十八神社へ戻る全行程約7kmのコース。

少し険しいところもありましたが、参加した子どもたちも元気いっぱい。幅広い世代の方々が大和富士登山を楽しまれ、下山してから、地元の方々の温かいおもてなしに心なごむひと時を過ごしました。

毎年参加されている方が、笑顔で「また来年!」と言って帰って行かれる姿が印象的でした。



▲山頂で食べるお弁当は最高!